

## 短 報

ヒアリのリスクコミュニケーション  
— 21 回の取材対応を通じて見えてきたこと —

勝田吉彰

関西福祉大学

## はじめに

2017年5月26日に尼崎市内にてヒアリ (*Solenopsis invicta*) が確認されたのを契機に、報道で大きなスペースを占め、連日、ヒアリの画像がマスメディアを賑わせる状態が続いた。その間、筆者は新聞・週刊誌・医学誌・テレビ・ラジオ・ネットメディアから合計21件の取材・出演依頼・執筆依頼などを受けることとなり、一般社会に対する医学面からのリスクコミュニケーションにあたった。筆者はこれまで外務省医務官として重症急性呼吸器症候群 (SARS) 流行渦中の北京で邦人社会対象のリスクコミュニケーションにあたったのをはじめ<sup>1)</sup>、インフルエンザ A/H1N1 (2009年当時の新型インフルエンザ)・中東呼吸器症候群 (MERS)・エボラ熱 (EVD)・ジカウイルス感染症・関空周辺の麻疹流行等の渡航医学案件で取材対応にあたり、その経験から得られた知見の報告を重ねてきた<sup>2-4)</sup>。今回経験したヒアリ関連のリスクコミュニケーションにおいて、渡航医学分野における筆者のこれまで経験とは異なる点を報告するとともに、渡航医学関係者が認識することがのぞまれる点について論じる。

## 経 緯

今回のヒア리를めぐる取材対応を表1に示すとともに、第1～3期にまとめた。

## (1) 第1期 (発生～6月末まで)

2017年5月26日 (発表は6月13日) の尼崎市内での確認に次いで、6月18日に神戸港コンテナヤードでの確認が発表された頃から報道がヒートアップし、「殺人猛毒アリ」などセンセーショナルな見出しとともに、新聞 (全国紙・地方紙・スポーツ紙)、週刊誌、テレビ (キー局・

発生地付近のローカル局) で多彩に報道された。神戸港での確認が発表された翌日、6月19日に筆者地元の神戸新聞からコメント依頼が寄せられた。筆者の前職、外務省医務官時代にセネガルでアリ咬傷をこじらせた青年海外協力隊員の皮膚科ケアを行った話や、アナフィラキシーショックの一般的知識などを話した (注: セネガルには同属の *Solenopsis orbuloides* の報告<sup>5)</sup>がある)。その後、メディア各社から取材が相次いだ。いずれも、農学系研究者がメインとなってヒアリの生態を解説する部分に大きなスペース (時間) が割り当てられ、脇役に筆者がアリ咬傷の症状や治療について説明するパターンが主流であった。

## (2) 第2期 (7月初旬～末)

7月に入ると、「殺人猛毒アリ」的センセーショナルな見出しやヒアリ自体の解説は減ってゆき、具体的な対処法について解説する機会が増えた。農学系研究者との共演が減り、筆者がヒアリの生態をかいまんで復習しつつ、アナフィラキシーショックを含めた具体的な対処法について情報提供するパターンが増えた。

## (3) 第3期 (8月～)

8月に入ると全国紙や在京キー局のヒアリ報道は減少し、ヒアリが確認された場所の地方紙や地方局がローカルニュースとして報じるのが主体となっていった。筆者も OHK 岡山放送や宮城テレビなどでヒアリの生態や刺されたときの処置などを示した。

## 考 察

## ワンフレーズでインプット

当初、各社報道には「殺人猛毒アリ」的なセンセーショナルな見出しが並び、一般社会の不安感をかきたてた。しかし、ヒアリ刺傷による死亡例はアナフィラキシーショックによるもので、処置が遅れなければ救命しうる「本来、死ななくてもよかった死」である。したがって、咬傷後、一人にならず (させず) 周囲の人間が観察すべきことと、あわせてとるべき処置をワンフレーズでイン

連絡先: 勝田吉彰 関西福祉大学  
〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3  
TEL: 0791-46-2525 FAX: 0791-46-2526  
E-mail: katsuda@tkk.att.ne.jp

表1 ヒアリ関連で受けた取材一覧

日付	媒体	取材方法	以前の取材歴	連絡方法	取材内容	農学系共演者
2017.6.19	神戸新聞	電話取材	あり	直接	症状・処置	あり
2017.6.19	サンテレビ	電話取材	なし	大学広報課	症状・処置	不明
2017.6.19	関西テレビ (みんなのニュース)	電話取材	あり	直接	症状・処置	あり
2017.6.19	日刊ゲンダイ	電話取材	なし	大学広報課	症状・処置	あり
2017.6.29	フライデー	電話取材	なし	大学総務課	症状・処置	あり
2017.6.29	週刊新潮	電話取材	なし	大学総務課	症状・処置	あり
2017.6.21	TBS ラジオ (荻上チキのSS22)	出演(電話)	あり	直接	オンエア中に合言葉考案	あり
2017.6.30	名古屋テレビ	電話取材	なし	大学広報課	合言葉フリップ初回	不明
2017.7.5	FM 岡山 (フレッシュモーニング)	出演(スタジオ)	月例定期出演	直接	フリートークの中にヒアリの話題を挿入	なし
2017.7.10	毎日新聞(社会部)	電話取材	あり	直接	症状・処置	なし
2017.7.11	朝日放送(キャスト)	出演 (現場ロケ収録)	なし	大学総務課	合言葉フリップ・蟻対策実演・今後見通し	あり
2017.7.11	フジテレビ (ハウドゥキョクあしたのコンパス)	出演(電話)	あり	大学広報課	合言葉フリップ	あり
2017.7.18	読売テレビ(ten)	電話取材	あり	直接	合言葉フリップ	不明
2017.7.25	大分放送	電話取材	なし	大学総務課	ヒアリ概要	不明
2017.7.28	毎日新聞(医療福祉部)	電話取材	あり	直接	合言葉一覧表	なし
2017.7.29	日本医事新報	依頼原稿執筆	あり	直接	合言葉一覧表	なし
2017.8.1	岡山放送 (みんなのニュース)	出演 (現場ロケ収録)	なし	大学総務課	合言葉フリップ・エビベン模擬実演	なし
2017.8.9	FM 岡山 (フレッシュモーニング)	出演(スタジオ)	月例定期出演	直接	経過・合言葉・将来予測	なし
2017.8.10	岡山放送 (みんなのニュース)	出演(収録)	あり	直接	水島港確認によるコメント	なし
2017.8.11	ミヤギテレビ	電話取材	なし	大学総務課	ヒアリ概要・見つけた時の処置	不明
2017.9.20	岡山放送 (みんなのニュース)	出演(収録)	あり	直接	笠岡市確認によるコメント	なし

ひ：ひやす(局所を冷やす)  
 あ：あらう(局所を洗淨する、あわせてポイズンリムーバー紹介)  
 り：リスタと認識(緊張感をもって対応)  
 おく：おくすり(抗ヒスタミン薬など、処方薬が必要になることあり受診すすめる)  
 や：やすむ(30分以上、活動せずに安静)  
 み：みまもる(ひとりにせず、周囲の人間が見守る、アナフィラキシー症状が現れたらエビベンおよび救急車手配)

図1 ヒアリ咬傷時の処置をまとめたワンフレーズ

ットすることを試みた。「ひあり おくやみ」というフレーズを考案し発信した(図1)。これはラジオ番組の電話出演中に考え付いたものであるが、他の社局からも思いのほか好評を得て、説明の要請が相次ぎ、フリッ

プや字幕や記事で紹介された。「必要事項をワンフレーズでシンプルにインプットすること」に対する需要が一般社会に根強いことを実感した。

#### 能動的表現

当初の、実際の犠牲者数が不明なうえ、「殺人アリ」「猛毒アリ」といった見出しが目立つ状況では様々な噂が流れて社会不安が発生する。流言の数は、事象の「重要さ」と「あいまいさ」の積に比例するというオルポートとポストマンの法則にならえば、「あいまいさ」を減らすことが流言を減らし社会不安の軽減に結び付く。ヒアリ咬傷による犠牲者はアナフィラキシーショックによるものなので、治療法があること、手遅れにならないければ救命しうることを説明し、「日本の死亡例をゼロにしよう!」と能動的表現を用いてアピールした。

### ロケでつかんだ現場の空気感

今回、二つのロケに参加し現場の感覚をつかむことができた。ABC 朝日放送（大阪南港）、OHK 岡山放送（水島港）の依頼により、それぞれの港周辺で実際のコンテナを背景に解説し、アリ対策の実演（スプレー、液剤、ベイト剤）、エビペンのデモンストレーションなどを行った。

いずれの港も「水際対策」としてトラップの設置が行われている港湾敷地を一步離れれば、周辺の路上や公園施設で容易にアリの巣を見つけることができた。多くの在来種が活発にうごめくのを確認しながら、アリの棲息に適した環境が港周辺にあることが実感されコメントに生かすことができた。このような実感は通常の医療現場や大学では得られにくいものであり、ロケ車に同乗して現場に身を置いて初めて分かることも多く有意義であった。

さらにもう一つロケの利点は、スタジオ出演や電話出演に比べて圧倒的に長時間、スタッフと接することにある。その中で雑談的なコミュニケーションが可能で、伝え方のアイデアや、渡航医学的に伝えるべきテーマなど様々なことをインプットする機会に恵まれた。

### 取材ルート・媒体

最初の神戸新聞は馴染みの部局からの直接連絡であったが、引き続き筆者の勤務する大学の広報課等を経由して取り次がれたものが相次いだ。過去の感染症やメンタルヘルスでの渡航医学関連案件では、すでに取材実績があり、筆者の連絡先を知る媒体からの直接コンタクトが多かったが、今回はほぼ半々で、初めてコンタクトの来るメディアも目立った。これは、最初の神戸新聞へのコメントが Yahoo ニュースに転載され、それを見た各社が次々と大学にコンタクトしてきたものである。これまで報道されなかった目新しい案件について、取材対象者を探す動き、そして、どこか1箇所で報じられれば、それを見て横並びで取材依頼をかけてくるというメディアの習性が反映されたものと思われる。

媒体として目立ったのは、地方局（朝日放送・大分放送・岡山放送・宮城テレビ）からのコメント依頼であった。エボラ・MERS・ジカなど従来の感染症案件では、在阪準キー局や在京キー局からが大部分で、地方局・地方紙からのコメント依頼は筆者の職場所在地周辺の社局を除いてほとんどなかったが、ヒアリ関連では異なる展開となった。これは、感染症のようにヒトからヒトへと拡大するものではなく、「ヒアリ本体が見つかった都道府県」とそれ以外とで温度差があること、ヒアリが見つかった当該地での局地的緊張感が主であることがうかがえた。地方局におけるリスクコミュニケーションでは、地理的

に対象者が限られ、ターゲットを絞ることができる。たとえば宮城テレビの電話コメントでは、あらかじめグーグルアースでフェリーターミナルとアウトレットモールなど人出の多い施設が近接していることを確認し、先行する大阪南港や水島港とは異なる仙台港周辺の環境を把握したうえでコメントするなどの工夫を試みる余地があった。

### 異なる分野との協働

ヒアリのリスクコミュニケーションが感染症におけるそれと異なる点の一つに、普段接触のない農学系専門家との同時出演や同記事でのコメントで、分野による言葉の違いに直面することがあった。たとえば「水際対策」という言葉は、医学分野では検疫で阻止して（感染症指定病院に送り）市中に入れないように目指すことを意味するが、農学分野では、国内で定着してしまうことを阻止するのが目的となる。今回、神戸港を通過して尼崎市内で発見されても、それをもって突破されたことにはならず、そこから水際対策としてトラップ設置や港湾敷地内に限定した薬剤散布が行われた（港湾敷地から金網一つ隔てた土地にはトラップも薬剤散布もなく、在来アリが蠢いており、ヒアリが到達すればいつでも棲息できるのはロケの際に確認した）。このような場合、言葉の定義や効果について“文化論争”を行うのはリスクコミュニケーション上は意義がなく、一般社会の混乱を招くばかりと思われる。分野による文化の違いに遭遇した際には、他分野における理解ぶりを速やかに学習し、合理的範囲内で合わせるのも必要と感じた。

また、メディア対応の経験値も分野によって異なることも考慮する必要がある。渡航医学や感染症分野においては2003年以來、SARS・新型インフルエンザ・鳥インフルエンザ（H5N1, H7N9）・エボラ熱・MERS・ジカウイルス感染症・麻疹輸入例などで、一般社会のパニックやメディアの報道洪水といった事象に、毎年のように対応を迫られてきた経緯がある。しかしながら、ヒアリ関連分野ではそのような事象は少なく、たとえば昆虫学者の岸本年郎氏からは「日本への侵入自体はいつか起きると考えていた事態だが、市民の反応については予期できていなかった…（中略）…多くの市民が存在さえ知らなかったこの小さな昆虫に『殺人アリ』という恐ろしい名が付与され、生命の危険が強調されるような報道が相次いだ。ヒア리를良く知る昆虫学者や生態学者の多くはこの事態を憂慮し、取材を受けた者たちは躍りになって…」と、マスメディアや一般市民の反応が予想外であったことを戸惑う声も発せられている<sup>6)</sup>。

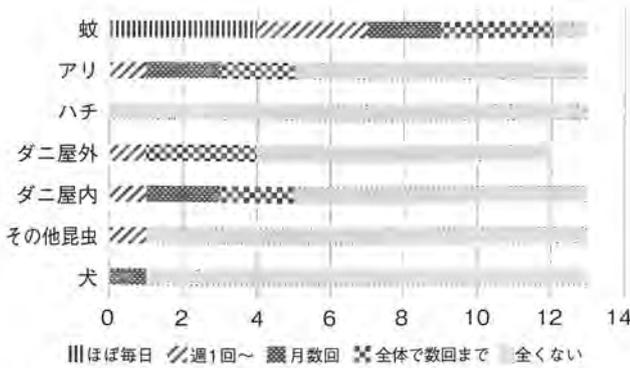


図2 ミャンマー在留邦人が昆虫や動物に刺された/咬まれた回数 (n=13)

### 渡航医学現場で伝えること

今回は海外から輸入品のコンテナに載り日本国内に運ばれてきた「インバウンド」案件であるが、我々渡航医学に関わる者は、海外赴任者など「アウトバウンド」への情報提供を求められ、ここでヒアリ関連の情報提供が望まれる。筆者はミャンマーにて定期的に在留邦人対象のアンケート調査を行っているが、2017年9月の調査時に「現地生活で昆虫や動物に咬まれる頻度」を問う質問を臨時に設けた。結果を図2に示すが、咬まれる対象として「蚊」が突出して多かったものの、「屋内のダニ」と並んで「アリ」が第2位となり、月数回程度咬まれていることが分かった。実際に海外在留邦人はアリに咬まれているのが明らかで、以下、情報提供が望まれることを記す。

#### (1) *Solenopsis* 属の分布国

今回の話題となった *Solenopsis invicta* は原産国の中南米のほか、船荷によって運ばれた中国・台湾・オーストラリアで報告がある。同様にアナフィラキシーショックの報告<sup>7)</sup>がある *Solenopsis geminata* (通称 *tropical fireant*) は同じく中南米を起源としながらアジアへの分布域拡大は16世紀までさかのぼることができる<sup>8)</sup>。その分布域はアジア (バングラデシュ・ブルネイ・中国・クリスマス諸島・インド・インドネシア・マレーシア・ミャンマー・パキスタン・フィリピン・スリランカ・台湾・アラブ首長国連邦・ベトナム)、アフリカ (ガボン・リベリア・モーリシャス・レユニオン)、北米 (カナダ・米国) と広い<sup>9,10)</sup>。

#### (2) 営巣パターンと刺されたときの処置

蟻塚を形成することが一般的であるが、立木に営巣することもある。南米ボリビアでは、自動車窃盗犯をつかまえた自警団が犯人をヒアリが巣くう立木に縛り付けるという私刑を行ったところ、救出に来た母親も同様に縛り付けられ、アナフィラキシーショックを起こして死の転帰をたどったという事例が報じられている<sup>11)</sup>。また、

種は不明ながら、ゴルフ場で立木にもたれかかったところアリに刺されて受診した邦人例についても現地医療関係者から耳にしている。

刺されたときの処置として前述の「ひあり おくやみ」を赴任前研修等でインプットするとよいが、特に、アナフィラキシーショックの症状の説明とともに、「刺されたらひとりにならないこと、ひとりにさせないこと」を強調すべきである。アナフィラキシーショックの応急治療薬エピペンが入手できるのは欧州各国のほか、オーストラリア・マレーシア・ニュージーランド・フィリピン・台湾・タイ・米国・カナダ・南アフリカ・チリ・イスラエル・アラブ首長国連邦の各国であるが<sup>12)</sup>、これら以外の国への赴任にあたってはアレルギー症状の既往のある者については、出発前にエピペンの処方を受けてゆくのも一法であろう。

### おわりに

2017年は日本の一般社会に、「ヒアリ」という単語が刻まれた元年といえる。今後、グローバル化のなかで、ヒアリの報告・目撃・咬傷の機会も増え、身近なものとなってゆくことが考えられる。正しい情報の普及に向けてさらなる工夫を重ねてゆきたい。

### 謝 辞

本稿で報告した一連の活動において、メディア各社に加え、アース製薬からアリ対策製品の、ファイザー製薬からエピペンの情報提供の形で協力をいただきました。感謝いたします。

本稿の一部は、グローバルヘルス合同大会 (第21回日本渡航医学会学術集会) で演題発表を行ったものである。

### 文 献

- 1) 勝田吉彰. 大規模感染症流行が及ぼす心理的影響と対策—SARSの経験から新型インフルエンザパンデミックへ—. 臨床精神医学 2006; 35: 1719-22.
- 2) 勝田吉彰. 医学報道をめぐるコミュニケーションギャップ—マスメディア業界と医学界の文化的差異をさぐる—. こころと文化 2008; 7: 174-81.
- 3) 勝田吉彰. 新型インフルエンザパンデミックにおける社会不安緩和に向けた報道の考察—マスメディア関係者の意識調査から新型インフルエンザ報道への提言—. 日本渡航医学会誌 2008; 2: 4-10.
- 4) 勝田吉彰. 渡航医学のリスクコミュニケーション: ジカウイルス感染症を含めて. 日本渡航医学会誌 2016; 10: 8-13.
- 5) Antwiki Senegal. <<http://www.antwiki.org/wiki/Senegal>> (2018年1月20日アクセス)
- 6) 岸本年郎. ヒアリはなぜ怖いのか. 文藝春秋 2017; 95: 86-8.

- 7) Rutcharin Potiwat and Raweerat Sitcharungsi. Ant allergens and hypersensitivity reactions in response to ant stings. *Asian Pac J Allergy Immunol* 2015; 33: 267-75. <<http://apjai-journal.org/wp-content/uploads/2016/10/2AntallergensAPJAIVol33No4December2015P267.pdf>> (2018年1月20日アクセス)
- 8) Gotzek D, Axen HJ, Suarez AV, Helms Cahan S, Shoemaker D. Global invasion history of the tropical fire ant: a stowaway on the first global trade routes. *Mol Ecol* 2015; 24: 374-88.
- 9) Solenopsis species by country. <[http://www.antwiki.org/wiki/Solenopsis\\_species\\_by\\_Country](http://www.antwiki.org/wiki/Solenopsis_species_by_Country)> (2018年1月30日アクセス)
- 10) Solenopsis geminate (Tropical fireant) <<http://www.cabi.org/isc/datasheet/50568>> (2018年1月30日アクセス)
- 11) Vigilantes kill woman by tying her to tree infested with fire ants-she was innocent. <<http://metro.co.uk/2017/01/05/vigilantes-kill-woman-by-tying-her-to-tree-infested-with-fire-ants-she-was-innocent-6363026/>> (2018年1月30日アクセス)
- 12) ファイザー製薬からの情報提供  
(2018年1月26日受付, 2018年7月17日受理)